

友情と信頼の先の価値ある奉仕

弊社は主に関東 関西圏内に食品、お花を運ぶ運送会社です。山形からの運送ということで長距離輸送がメイン事業となります。一度会社から出発したらドライバーさんが会社の顔となり、荷積み、輸送、荷下ろしと一人で行わなければなりません。ワンマンドライバーだからこそ、車両管理、健康管理は必須となりますが、途中配送先で具合が悪くなったり車輛トラブルがあったりと、日々様々なことがおきます。

ある日、東京の冷蔵庫団地で「具合が悪くて動けない」、とドライバーから電話がありました。すぐさま管理職がその対応に追われます。停車している場所は工業団地内で近くに駅ありませんし、まして病院がどこにあるかもわかりません。

情報を得るために、弊社の社長が、東京に拠点を持ち同じく運送業を営む社長さんに、もよりの病院を教えてください、と連絡をしました。同時進行で航空券の手配をしてドライバーと車両を引き取る段取りを、帰りに積む予定の荷物を他の車輛に変更する手配を行っているようでした。

バタバタと対応していると、社長が連絡をとった岩田社長さんという方から「そこは交通の便が悪いから僕が迎えに行って病院に連れていくよ」と連絡がありました。また、ドライバーの迎え人員のことも心配してくださり、ドライバーを病院に降ろした後、弊社常務を羽田まで迎えにいつて置き去りの車輛まで送ってくださるということでした。たいへんお忙しい社長だと聞いていたし、弊社とはお取引もないので、なぜそこまでしてくれるのか私には理解できませんでした。

弊社社長と岩田社長は同じ年で、協会の青年部組織で共に業界のために活動していこうとしている大切な仲間だそうです。取引もない会社のドライバーの急病に、大きな会社の社長の行動が半日以上も取られ、それでも偉ぶることなく弊社のドライバーと迎えの常務の心配をしてくださり、最終的に診察を終え帰路に向かうドライバーの迎えもしてくださり、「気を付けて帰ってね」と笑顔で別れたということでした。そんな人いる？なんていい人なんだ！素晴らしい人なんだ！と弊社の事務所内は感嘆の声をあげていました。

夕食の団らん時も、その話題になりました。

母（弊社社長）が言うには、「この先の運送業界の地位向上を考えて、国や行政をも巻き込んで活動されている方でね、私もその仲間に入れさせてもらっているのよ。そうそう、彼もロータリアンでロータリアン仲間の銀座のクラブにも連れて行ってお高いお酒をご馳走してもらったこともあるのよ」と教えてくれました。

今回の岩田社長の行動は「ロータリーの目的」にある「役立つ仕事はすべて価

値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること」に該当するのではないかと頭をよぎりました。

私は岩田社長と直接お会いしたことはありませんが、いつかその時のお礼と一人のロータリアンとしてご挨拶したいと思いました。また私自身、今の「物流」という職業を「高潔なもの」として誇りを持ちながら仕事していきたいと思っています。